ふかまちのまど

第九三号　二〇〇二年一月一日
発行元　深町　町内会連合会
連絡所　☎六三―三八八七

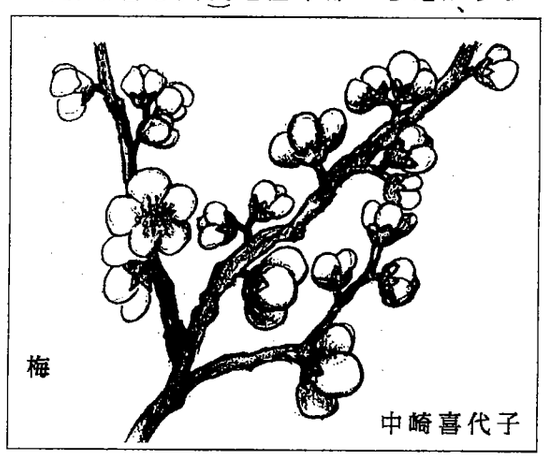
深町の地質

元深小学校校長　山田　義孝

機会を得て「ふかまちのまど」に寄稿することになった。三年間、公私ともにお世話になったことへのせめてものお礼として浅学をかえり見ずペンをとることにした。

足を地につけて、という言葉があるが、まず深町を地質の観点からみてみたい。

深町の大部分は約一億年ほど前の中性白亜紀（恐竜が栄えた時代）に、激しい火山活動による火山灰や溶岩が火砕流となって流れ固まってできた「高田流紋岩」という岩石からなっている。中之町の砕石場あたりと同じ岩石で、筆影山上部や恵下谷の中・上にも広く分布している。



下組の尾道市との境付近にはもっと古い古生代終りの二畳紀といわれる時代（二億年ほど前）の古生層という海底に積もった粘土や砂が固まった岩石が見られる。如水館のある丘の付近には、かって畳表のイ草を染める良質な粘土（染土・イ泥）が採掘されていたが、これは一千万年ほど前の川の名残りの礫層（石ころや砂や粘土）の中の粘土であると思われる。

深町の地質で特筆することは、大きな断層が町を貫いていることである。いわゆる三原断層といわれるもので、中之町和久原川に沿って太郎谷から深大池あたりを通って木ノ庄町市原に至るものである。太郎谷の新しい道路は、位置も方向もこの断層に沿って流れた和久原川によって作られた平地にできていることになる。断層というと地震が気になるが、地震を起こす断層は活断層といわれるもので、百七十万年前から今までに変動が地形や地層に記録された新しいもので、約千年間隔で地震を起こすといわれる。三原断層は古い断層であるため活断層とはいえない。

川はほとんど断層にそって流れ土地を浸食する。沼田川もその例である。深町の平地をつくった高平川・藤井川もその方向からみて、小断層に沿って流れていると考えられる。深町の平担地は標高約百米であるにもかかわらず、分水点となっているのも興味がある。

本来なら南へ流れている高平川は、太郎谷から中之町へ流れ下るはずであるが、峠の硬い岩石にはばまれて北東へ流路を求め藤井川となったものである。中之町の谷が深いのは断層のせいでもあるが、下流に向かって右側が花崗岩で風化・浸食が早く進んだためと考えられる。峠あたりが風化しやすい花崗岩であったら高平川は中之町へと流れ、藤井川もそれにつれて流れを変えたかもしれない。

地図や地質図を見ながら、いろいろ思いをめぐらすのも楽しいものである。

▲▲

中国朝鮮航路の思い出（5）

秋本　俊之

冬期の日本海の気象状況は西高東低の冬型が多いので、北西の風が強く、波も三～五米位が荒れ狂い、山陰の国道まで波が上がるようです。

船もそれを覚悟で航行しますが、積荷も船倉に入り切らないときは、デッキ積みを余儀なくする場合があり、走航中にそれに大波をかぶる場合があります。いつかデッキ積みしたリンゴ箱に大波をかぶり、箱が破裂してデッキに散乱したことがありました。

そんな場合は、荷主がそれを承知で積んでいるので船には責任はありません。

朝鮮から積んだリンゴ箱が破烈したので、それ等を拾い集めてふんだんに食べた事がありました。又、材木をデッキ積みした場合も波で積荷が傾き、船の重心が狂い、船の中のバラスト水では船の傾斜を戻すことができず、傾いたまゝ航行を続けた場合もありました。この場合は大変危険で、大きな横波を受けると転覆する場合があるとの事でした。

朝鮮海峡まで南下し、東に進むと日本海の風も少しは弱まり、秋等には日本海のイカ釣り漁船が出て、水平線にはイカ釣り魚船の行列ができます。夜になると数百隻の漁船が一隻に五・六灯の集魚灯をつけているので、水平線はまるで提灯行列の様です。

本船はその漁船の間を縫うような形で東に進みます。その中に出雲の日御埼の灯台の光芒が空を照らします。やれやれ出雲の近海まで帰ったなと感じることでした。

舞鶴まではまだ相当距離がありますが、夜が明けると今度はイルカと船の競走です。本船の速度が遅いので両サイドのイルカの大群と平行して走ります。イルカも相当大きく途中飛び跳ね乍ら船を追いかけて来ます。これが航海中の無聊を慰めてくれます。面白いのでこれらの写真を撮ったことがありました。

舞鶴は軍港なので夜間入港の際は、発火信号で許可を得ることが必要です。港の入り口の小山の上に信号所が設置してあるので、本船よりモールスの発火信号で、会社名、船名、積荷、出港名、入港名等を発信し、入港の許可を貰い入港することでした。

▲▲

如水館　吹奏楽部のみなさんへ

深小学校　二年　井手上ちはる

この前は、たくさんの曲をありがとうございました。

みなさんの音楽はとてもきれいでした。わたしの知っている曲がたくさんありました。ラピュタや、トトロなどあってとてもおもしろかったです。大きな音が響いていて体がふるえてきました。わたしは、フルートの高い音が気にいりました。

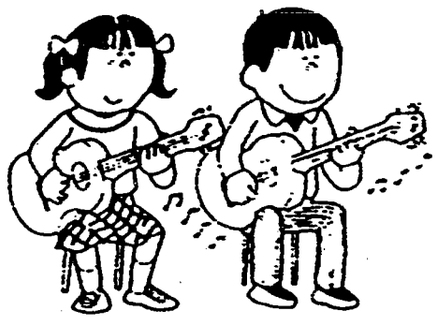
劇の水泳をしていたおにいさんたちが、とても楽しかったです。

楽器の紹介もしてくれましたね。よくわかりました。

わたしも大きくなったらフルートを吹いてみたいです。

来年もまた、聞かせてくださいね。

▲▲



謹んでお悔み申し上げます

★沖西　明様　七二歳　二二日

深町各種団体二月行事予定

◆小学校（幼）

▼内科検診（小）――一日
▼豆まき（ヒヨヒヨハウス）（幼）――一日
▼参観日（小・幼）――一四日
▼教育講演会（小）――一四日
▼新入園児保護者会（幼）――二一日
▼一年生入学説明会（小）――二六日
▼マラソン大会（小）――二七日
▼チャレンジタイム（小）
一日・五日・八日・一二日・一五日・一九日・二三日・二六日――各
▼テーマタイム――一六日

◆女性会
▼親睦会　上――二〇日
中――四日
下――一〇日

展望席

「創造的破壊」歓迎

月刊で発行している本紙が八年になり、紙面のマンネリ化も気になります。どなたか新しい感覚でやってみませんか。ワープロかパソコンが使えれば誰れでも簡単にできます。

広報誌づくりに挑戦してみようかと思われる方は、町内会長か連合会事務局長までご一報を。

持て余す時間の捨て場に新聞等の切り抜きをしているが、暗い内容の多さに考えさせられる。これは個人の偏見か、それとも報道側のご都合か、明るい記事はほとんど見当たらない。昨年九月以降の世相を新聞見出しで拾ってみた。▼「中学教諭逮捕」中一女生徒監禁致死容疑（九月）。「デフレ深刻、雇用沈む」失業率五・三％（一〇月）。電機七社、最終赤字一兆円」営業赤字一二〇〇億円（一〇月）。「国税徴収官が収賄」京都府警逮捕（十月）。「一四億円横領の疑い」青森県住宅公社（十一月）。▼「二領事を懲戒免職」外務省公金流用。「自治労六億円所得隠し」元委員長ら在宅起訴（十一月）。「片山総務相団体に五〇〇万円」馬主協会長から（十二月）。「小学校長が売春」広島県三次市立小（十一月）。「元国税局長、脱税容疑で逮捕」所得隠し七億円（〇二年一月）。加藤（紘）氏秘書脱税容疑」数億円所得隠す（〇二年一月。▼明るいニュースと言えば「愛子様誕生」そして、「ノーベル化学賞に輝いた名大の野依教授」。他には投書欄に小さな活字で載る市民の「細やかな感動記」。小泉首相は「改革には痛みが伴うが断固やる」とおっしゃる。政治家や上級公務員に改革による痛みが如何程あるのだろうか。昨年は自殺者も三万人を超えた。三洋電機は、転進支援下限を五〇歳から三五歳に引き下げた。痛みを国民に強要する前に自から体験してほしい。

深町歴史散策 (16)

高崎　壽郎

太郎谷バイパスと木田ヶ峠

平成七年（一九九五）に太郎谷バイパスが開通して、はや七年が経過した。

このバイパスは、中之町―深町間の一・二キロを結ぶ二車線道路で、昭和六二年（一九八七）から九年の歳月と約二二億円の総事業費で完成したもの。

旧道に比べると、距離にしてわずか三百m程の短縮となるが、予想以上のメリットがある。

・旧道ではよく渋滞したが、その心配はなくなった。
・見通しがよくなり、車を安心して運転できる。
・人や物の行き来が増し、バスの回数も多くなった。
・周囲の開発が進み始めた。

でも、次のような心配もある。

・スピードを出しすぎて、大きな事故の発生。
・南側が山陰になり、冬は凍結のおそれ。
・排水口にフタがないので危険。

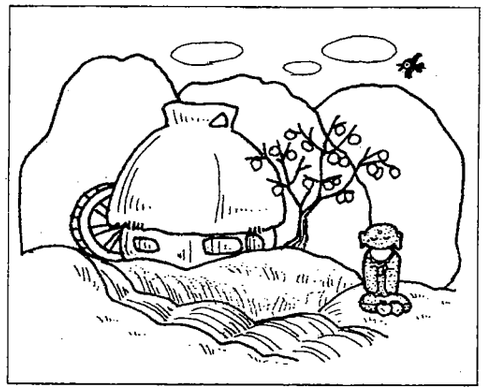
いずれにしても、このバイパスの開通が、深の過疎化の進行にブレーキをかけてくれたことは間違いない。

バイパスの頂上は峠になっており、中世の山陽道（現在の国道二号線に当る）が通っていた。

峠は木田ケ峠（古地図や古文書に出てくる）といった。秀吉が天正十五年（一五八七）三月、国内統一のために九州攻めに向かった時、この峠を越えたといわれている。

ここを下ると山中村（現中之町）で、この道は現在も健在。

かって、峠には峠堂（本尊六地蔵）があり、ここを行き来する人は必ず立ち寄った。そして、一休みした。



堂の傍には、樹齢を重ねた一本の老松が辺りを見下ろしていた。

三原の町へ用事のあった者はその一本松のある堂へたどり着くと、やっと深へ帰ったような気がしたという。その松も昭和三五年（一九六〇）頃には倒され、峠堂も平成六年（一九九四）に沖成瀬へ移転した。

今、峠堂跡に立ってみると、西方に中之町の家並が眺望できる。

朝八時も過ぎると、バイパス脇の歩道を、如水館の生徒が元気に登ってくる。車道には、いろんな車種の車がスムースに流れている。付近には、カラフルな新築の家が目立つ。

もし、この峠辺りの変貌を、かっての堂の地蔵や老松が見ることができたら、どんな感慨を持つことだろう。▲▲

昨年、私の目標は半分しか達成できなかった。イチローの打率よりは、はるかに良いが不満だった。

昨年一月十五日「ウツ病」と診断され、現在も薬の助けを受けている。医師から「無理をすると仕事が出来なくなる」と言われ、「楽しい事をどんどんしなさい」とも。私は大いに楽しんだ。今は元気で幸せな毎日。

母は、私が三歳の時に亡くなり、あと、昭和六十三年十一月まで私を育ててくれた「二人目の母」に対してもこの体は大切に世に役立たせたい。

周囲の人から励まされ、兄弟からいろいろ助けてもらい、孫からは「おじいちゃん」、「おじいちゃん」と甘えられ、恵まれたこの体。

今年は故郷に希望の家を作ると決めている。そこは私の理想の住まい。不安のない仲良く暮らせる場所でありたい。山の中で、自然の中で、誰にも遠慮のない生活が営みたい。

自由に出入りができ、夏涼しく冬暖かく、自分で自分の食べるものを作って食べる。体が不自由になったら、元気な人が手助けする。される。

されている人も、する人も楽しみながら生活出来る天国をこの世に作りたい。

「一年の計は？」

坪見博文

お金の力を借りなくとも、楽しく生活出来る家。人生の目標は大きい方がすばらしい。吾が家が完成したら見に来てネ。▲▲

深小学校だより

「新春ふれあい広場」のお礼

深小学校

先月一月二十日（日）の「新春ふれあい広場」ではたくさんの方にきていただき、ありがとうございました。

とんどの竹の切り出し、前日のとんどの準備、また早朝よりもちつきの準備と、多くの支援をいただきました。

また、当日は子どもたちといっしょにジャケンをしてくださったり、もちを焼いてくださったりと地域の方々との交流ができました。ありがとうございました。

新春ふれあいひろばでは大変お世話になりました。前日には竹を切っていただいたり、わらを準備していただいたり、がっちりした大きなとんどを組み立てていただいたりしてありがとうございました。

おかげさまで楽しいふれあい広場ができ、とてもよい思い出になりました。

深小学校児童会本部